

皆さんこんにちは。私は、三浦佑弥と申します。本日、皆さんとこの場にいることをとても嬉しく思います。新入生代表としてスピーチできることを光栄かつ誇りに感じながら、全力を尽くしたいと思います。

私は高校を卒業後、流暢な英語が話せるようになりたいと思い、専門学校に進学しました。英語をスキルとして学んでいくにつれ、ただ英語が話せるということよりも「英語で何を話すか」ということが重要であると理解するようになりました。また、多くの学術分野について理解を深める必要があるとも感じていました。そして自然に囲まれる中、木の下に座って本を読んだり勉強したりできる学びの環境を夢見るようになりました。私は、幅広い学問を研究でき、また学際的研究が学びの中心となっている場所を探していたのです。それが、私が国際教養大学を受験した理由です。ここはまさに私の夢を現実にしてくれる場所であり、将来の私の糧となるであろうことを学べる場所なのです。

私にとって、学ぶということは人生で一番重要なことだと思っています。私はこの国際教養大学に辿り着くまでの道のりで様々な教訓を得てきました。多くの成功や失敗から学びました。そこから二つの例を紹介させてください。

私は、高校時代にボクシング部の部長を務めており、関東大会で優勝しました。その経験を通じて、私はリーダーとして、忍耐することと、言葉だけではなく自分自身が行動で示して導くことの重要性を学びました。また、専門学校在籍時はクラスの雰囲気をよくしようと努めました。しかしクラスメイト全員のことを気にかけることができなかったことから、他者、特に少数派の意見にも目を向けることの重要性を学びました。これらはリーダーシップにおいて重要であると考えます。本学では学問だけでなく、グローバル・リーダーにとって何が必要であるかについても学びたいと考えています。

将来、私は人的資本を構築する仕事に就きたいと考えています。人的資本とはなんでしょうか。それは職場に関わることですが、最善で最も協力的な労働環境を作るため、マッチングスキルを用い、異なるバックグラウンドを持つ人々を交差させることに重きを置くものです。我々は、人と人とのつながりが会社を作ったり壊したり、あるいは社会の成功や失敗につながるような重要な役割を果たすという複雑な世界に生きています。私の場合、具体的には人材と企業のパイプ役となり、企業が活動的かつ円滑な国際的労働力を創る手助けをしたいと考えています。そのためには世界中の労働環境を知り、卓越したコミュニケーション能力と広い心を養う必要があります。国際教養大学はこれらを可能にしてくれるはずです。本学は世界中の人々と共に学び生活する機会を与えてくれます。ここは私にとって将来成功するために必要な術を学ぶ最高の場所です。

高校卒業から本学入学までのギャップイヤー期間中は、メキシコでボクシングの指導に携わることで、国際理解を深め、言語スキルを向上させ、リーダーシップ力を高めることができました。メキシコはボクシングの聖地のような場所です。私はメキシコ人と国際試合をし、競技者としてのキャリアに区切りをつけました。また、メキシコ人の学生ボクサーを指導しました。彼らとより効果的にコミュニケーションをとるため、語学学校に通い、スペイン語も学びました。それらは私にとって素晴らしい経験でした。その経験を通して、メキシコだけでなく様々な国の人たちに出会い、また、多言語話者を目指して一步を踏み出しました。国際教養大学ではリーダーシップスキルを磨くだけでなく、様々な言語を学ぶことができ、それはグローバル・リーダーになるためにきっと役立つはずです。

私にとって、この大学の学生になることは、ひとつの夢が実現したということです。ここにいる我々、新生はみな野心と希望に溢れているということを私は知っています。これからは、共に学び、競い合い、大学だけでなく地域に、そして最終的には世界に貢献できるよう努めていきます。グローバル・リーダーとなることを目指す、それこそが我々が国際教養大学に入学した理由なのです。御清聴ありがとうございました。